

第80回メーデー
宮城県中央集会

政治を変えよう 生活できる賃金と環境を

日

輪

2009年7月8日
第318号

日交支部
教宣部
発行責任者
鷲尾順章
981-1107
仙台市太白区
東中田1丁目1-11
022-241-8333



支部旗を掲げる鷲尾書記長

5月1日、錦町公園において、第80回メーデー宮城県中央集会が開かれました。宮城一般に正式加入してはじめてのメーデー参加となり、日交支部は組合員20名が参加しました。

集会では、自民・公明政権を変え「安心して働ける社会を勝ち取る」と訴えが出ました。特に、寸劇や仮想デコレーションコンクールでは、後期高齢者医療制度の廃止を求めた高齢者チームと政治家チームの野球対決、オケラ・アメンボに扮し最低賃金アップの訴えを替歌にして披露した宮城一般女性部の方々など会場を大きく沸かせていました。集会は「メーデー宣言」の採択で終了し、デモ行進に移りました。



横断幕を持ってデモ行進

営業取入の増取は 労使で努力

今回のメーデーの際に本部の提案と会社の協力で、日交タクシイの利用を求めたチラシを配布しました。2000枚のチラシと会社のティッシュを会場入り口で日交支部参加者全員で配りきりました。



チラシを配る組員

平和行進宮城県入 核兵器廃絶を訴え行進

09春闘は営業収入の落ち込みから「原資がなく労働条件や賃金の引き上げは難しい」と未だに妥結に至っていません。妥結に至らない理由として、百年に一度といわれる大不況で営業収入が予測を超える、大幅に落ち込んでいることとです。

厳しい環境で 打開策を 粘り強く

「原資の確保は必要ですが、現状の営業では難しく、状態回復に努めるのに精一杯なのが今の現状で会社も消極的になりがちです。厳しい環境の中、いかに実効性のある打開策を提案していかれるか。労働組合の存在意義を十分に発揮して、労働条件の改善が少しでも進めることができるように、今後も粘り強く、会社との交渉を進めていきます。」

核兵器の廃絶を訴えながら歩き続ける第52回平和行進に6月18日、19日の2日間、日交支部から山田組織部長が参加しました。18日は、将監市民センターから東北大北門まで、19日は東北大北門から岩沼までの行進です。



長町を行進中の3名

自己判断は危険 受診して 健康管理を

5月28日、会社2階会議室において、佐藤病院佐藤院長出席で安全衛生委員会が開かれました。はじめに会社より、春に実施された健康診断受診状況の報告がありました。今回の検診は実施日を1日増やしたことで受診率が上がり、受診者515名で医師の指示あり112名、所見あり197名、全員が5月内に受診が終わるとのことでした。

会社は新型インフルエンザ対策としてマスクの購入を検討。産業医の佐藤院長は「新型インフルエンザは思ったほど重症者が出ていないので神経質にならなくてもいいのではないかと」言いながらも「今後どのようになるか不透明だ、感染を防ぐには、手洗い、うがい、マスク着用、これで90%は防げる」と院長は「何で高齢者が感染していないのか不明だ」と話しました。



カレイをつりあげる嶺岸さん

「今回の釣果はあまり良くありませんでしたが大変楽しかったです。腕を磨き来年こそは優勝を狙うぞ」と意気込んでいました。



優勝トロフィを持つ薄木裕一さん

船酔いしながらも釣果上々

第1回日交支部つり大会

宮城一般日交支部の第1回釣り大会が、6月17日文化部主催で開催されました。参加者25名は閉上港より、2隻の船に乗り込み、一路大型漁礁に向かい、カレイ3枚の総重量で競い合いました。

参加者は日ごろの疲れを忘れ、釣りを楽しんでいました。中には、船酔いの人もいましたが釣果は上々のようでした。また、2課の桐ヶ窪武さんは「今回の釣果はあまり良くありませんでしたが大変楽しかったです。腕を磨き来年こそは優勝を狙うぞ」と意気込んでいました。

上位成績

- | | |
|----|---------|
| 1位 | 薄木 裕一さん |
| 2位 | 鈴木 憲明さん |
| 3位 | 嶺岸 利雄さん |
| BB | 金子 利彦さん |

キャンプのお知らせ

8月8日(土)・9日(日)
七ヶ宿・南蔵王青年村

詳細は組合掲示板をご覧ください。

新しい仲間が増えましたよろしくお願ひします



権利である最低賃金法 全国一律1000円の 最低賃金を実現しよう

全労連・全国一般宮城一般労働組合「みやぎ2009 市民の憲法行事企画」で「憲法25条と最低賃金」と題し、伊藤博義宮城教育大学名誉教授を講師としての講演会に日交支部より2名が参加しました。

皆さんに知っていた方がいい事は最低賃金法という法律があること、そして憲法25条の意義として「すべての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」ということです。宮城県の場合は653円、東京・神奈川の766円と100円以上の格差があります。

ます。

そして生活保護者より低い保障、仕事をしても満たない給料、今、ワーキングプアが増えるなかタクシー業界もその真っ只中にあります。

宮城一般が進めている全国一律1000円の最低賃金を実現させるための運動が必要なのだと言っていて実感しました。

社員の安定した生活ができるよう、会社の企業努力を願うものです。

このほど、全労連より新登場しました「いきいき応援共済」を二案内いたします。この共済は今まで健康上の理由で共済加入を諦めていた方、高血圧症・糖尿病・ぜんそく・胃潰瘍など治療を受けている方でも簡単な告知でお申し込みができます。

この共済は、ご加入前にかかっていた病気が悪化した場合でも「入院」「手術」が保障されます。シンプルな保障内容です。詳しくは折り込みチラシをご覧ください。